

器官系の病態構造 II

Pathology of Organ Systems II

単位数：5単位

○丸山理留敬 教授：器官病理学
石橋 豊 教授：総合医療学
田邊一明 教授：内科学第四
遠藤昭博 講師：循環器内科

1. 科目の教育方針

疾病の臨床診断にあたって身体所見、血液・尿などの化学的検査、各臓器器官の生理学的機能検査、放射線診断、病理診断等の画像・形態学的検査が行われるが、正しい診断に到達し、適切な治療とその評価が行われるためには、それぞれの検査から得られるデータを総合的に判断することが求められる。器官系の病態構造 II では、各担当教員が専門とする器官系の病態と構造の相関関係に焦点を当て、基礎の確認から各分野における先端的・実験的試みの紹介を含めて講義演習を行う。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 疾患の理解のために、器官系の病態、構造について、それぞれを解析的に分析し、それらを総合的に評価・理解する態度を養う。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 循環器系：心不全について病態と構造の相関関係を説明できる。
- 2) 消化管系：胃や腸の炎症性疾患や腫瘍について病態と構造の相関関係を説明できる。
- 3) 乳腺・内分泌系：乳腺腫瘍や内分泌系臓器の腫瘍について病態と構造の相関関係を説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率 (2/3 以上) を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Rosen's Breast Pathology, 4th edition, Wolters Kluwer/Lippincott Williams & Wilkins, 2014
- 2) Gastrointestinal Pathology: An Atlas and Text, Wolters Kluwer/Lippincott Williams & Wilkins, 2008
- 3) Modern Pathology, Nature publishing group
- 4) American Journal of Surgical Pathology, Lippincott Williams & Wilkins
- 5) Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, 10th edition, Saunders, 2014
- 6) Textbook of Interventional Cardiology, 7th edition, Elsevier, 2015
- 7) 新冠動脈造影法, 医学書院, 1990

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	循環器系 ① 循環器系としての心・血管・脳・腎：構造と機能	田邊 一明
2	② 心不全：病態生理	田邊 一明
3	③ 心不全：診断法の歴史と進歩	田邊 一明
4	④ 心不全：最新の治療、予防	遠藤 昭博
5	⑤ 心不全：実験的研究の進歩	遠藤 昭博
6	⑥ 血管不全：病態生理	石橋 豊
7	⑦ 血管不全：最新の治療、予防	石橋 豊
8	消化管系 ① 消化器系の構造と機能。病理からみる。	丸山理留敬
9	② 消化管の病態構造。炎症とがん。	丸山理留敬
10	③ 炎症性腸疾患：病態生理	丸山理留敬
11	④ 炎症性腸疾患：病理診断	丸山理留敬
12	⑤ 消化管腫瘍：病理診断（2）	丸山理留敬
13	乳腺・内分泌系 ① 乳腺・内分泌系の機能と構造の基礎	丸山理留敬
14	② 乳腺・内分泌系の病態構造 1 炎症と腫瘍	丸山理留敬
15	③ 乳腺内分泌系の病態構造 2 病理診断と治療の関連	丸山理留敬